



2026 年 9 月 29 日

日本鉄道労働組合連合会

J R 東 海 連 合 第 4 4 回 定 期 大 会

J R 東海グループ労働組合連合会は9月3日から4日にかけて、豊橋市内で第44回定期大会を開催し、向こう1年間の運動方針を決定するとともに、活動を牽引する新役員体制を確立した。大会には役員、代議員、傍聴者など約150人が結集し、J R 連合から上村良成会長と住吉一家労働政策局長が参画した。



鎌田会長(左)

上村会長(右)

主催者を代表してあいさつした鎌田隆司会長（J R 連合副会長・J R 東海ユニオン中央執行委員長）は、4年連続で発生させてしまった死亡労災に触れ、「仲間の命を守るためにも、責任を自覚し、行動を変えよう」と呼びかけた。

J R 連合を代表してあいさつした上村会長は、安全の確立、組織強化・拡大、政策課題の解決に向けた取り組みなど、最近のJ R 連合の取り組み経過を報告するとともに、2026春闘の成果報告と合わせてグループ労組の奮闘をたたえた。

議事では、執行部が提案した運動方針案に対し、全24単組の代議員から「安全の確立」「人財の確保」「労働条件の向上」など、さまざまな視点から運動方針を補強する発言があり、執行部答弁、



榎裕文野事務局長（J R 連合執行委員・J R 東海ユニオン中央執行委員）の総括答弁を経て全議案が満場一致で採択された。

連合が呼びかける労働法制に関する「フォト・メッセージ」に参画